かたりべ 18

豊島区立郷土資料館だより

◎文化財係が新設されました

新年度から、社会教育課内に「文化財係」が新設されました。

今まで資料館で担当していた文化財の保護に関する仕事が文化財係へ移ることになります。具体的には、文化財の登録、指定、保護に要する奨励金の交付や埋蔵文化財の発掘調査等の事業が文化財係の仕事となります。

問い合わせ ☎九八一-一一一一 内三四六五

◎よりよい資料館活動のために

近年、区民の教育と文化に対する関心と期待が一段と高まっています。なかでも、地域の歴史や文化への関心が高く、郷土資料館の役割も一段と大きくなってきました。

最近、私たちのまわりでも、中野・杉並・板橋区で郷土資料館が新築され、本格的な一区一資料館の時代を迎えました。

これを機会に、初めての試みとして、隣接する資料館関係者（豊島・練馬・中野・板橋・杉並区）が一同に揃い、「よりよい地域資料館の活動はいかにあるべきか」というテーマで検討会を開きました。第一回は、三月十六日、会場を本区郷土資料館研修室で開催。（写真）席上、ユニークな資料館活動の報告や、今後の課題等について意見交換が行なわれました。

今後は学芸員や事務担当者による情報交換会も予定されています。

区民と共に歩む郷土資料館をめざして

郷土資料館は、昭和五九年六月に開館してから、今年の五月で既に五年の歳月が経とうとしています。開館以来、立地条件や収蔵施設の狭隘さ、常設展示室の固定展示による展示替えの困難さなど、様々な制約が有りながらも、館職員並びに郷土資料館の事業をきっかけにして自主的に組織化された郷土資料館友の会を中心とする区民の多くの方々によって、二三区の中だけではなく、広く全国的にも注目される郷土資料館に成長してきました。「郷土資料館調査報告書」、「生活と文化」(郷土資料館研究紀要及び年報)、「収蔵資料目録」、「かたりべ」(館だより)などの定期的な刊行物の作成・頒布、特別展「へたも絵のうち」、「富士講と富士詣」、「トキワ荘のヒーローたち」、「豊島の集団学童疎開1・2」などの特別展示及び公開座談会、特別展図録の作成・頒布、歴史講座や文化財講座、地域史講座そして史跡散歩会の開催など様々な事業を実施してきました。

これまでの五年間を振り返り、実に多くの方が郷土資料館の事業に対し、期待をし、理解していただいてきたかが良くわかります。このような状況を分析し、今後郷土資料館がより多くの区民の方々と共に歩んでいくために、特に蓄積した経験をもとに考えてみたいと思います。

郷土資料館の役割について

郷土資料館は、この十余年の間に博物館・美術館・資料館等の建設ブームにのって、全国的にも地方自治体単位で開設されてきています。

二三区においても、その所管する部所は異なるとしても(教育委員会または、区出資による公社などの第三セクターなど)、数区を除いて開設されています。これらの博物館、美術館、資料館などは、博物館法や各区の条例、規則等の法令によって、その規模や事業内容が決められています。豊島区郷土資料館条例では、次のとおり郷土資料館の目的、事業などが定められています。

(目的)

第一条　この条例は、(省略)区民の教養、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第二条　資料館は、第一条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

一　歴史、民俗等に関する(省略)資料の収集、保管及び展示に関すること。

二　資料に関する必要な説明、助言、指導等に関すること。

三　資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

四　資料に関する講演会、講座等の開催に関すること。

五　資料に関する刊行物の作成、頒布に関すること。

六　(省略)教育委員会が必要と認めること。

また、郷土資料館が社会教育施設として位置づけられていることから、社会教育に関する事業(友の会、古文書研究会等の自主グループの育成、指導、助言など)についても重要な役割を担っています。

これからの課題と展望について

現在、資料館が抱える問題は、前述したような目的と事業を遂行する上で、収蔵施設が狭隘なため資料の収集や保管が極端に制約され、貴重な郷土資料の散逸を許してしまっていること、常設展示が固定展示であることから、一度来館すると再び足を運ぼうと思っていただけないことなどがあります。これらの問題を解決するためには、他区で見られるように相当規模の単独館を新設することが必要であると考えます。ただ、新設といっても地価高騰の今日、なかなか区民の方々に理解していただくことは難しいと思います。今後私達資料館の職員も、もっと郷土資料館の豊島区における必要性を理解していただけるような事業を企画するとともに、少しでも多くの区民の方々が気軽に利用できるよう

に努力していきたいと思っています。

一例を挙げますと、どのような資料が現在残っているかを示し、区民の方々に特別展の企画を練っていただき、館の職員とともに展示や講演会、特別展図録を企画製作していただくなどが考えられます。また、来館者にアンケート調査を実施し、どのようなテーマで特別展や講座・講演会を開催すべきか検討することも重要な課題となります。このように、資料館のお仕着せの展示や講座・講演会ではない、区民の方々の手作りの事業についても今後検討していく必要があると考えています。

山積する問題と課題の中で、職員体制がまだまだ十分とは言えませんが、区民の方々にもお手伝い願い、より身近な資料館の実現を目指して行きたいと考えます。

菊川武彦日記

「豊島の集団学童疎開資料集」第一集完成！

第一集は「日記・書簡編」のIとして時習国民学校（現・時習小学校）を取り上げました。

ここで載せた資料は集団学童疎開の資料調査で最初にお訪ねした亀田喜代子さん（旧姓・金丸、当時、同校疎開学寮の寮母さんをされていました）を始めとする方々から提供いただいたものです。資料集の内容は次のようになっています。

I　菊川武彦日記　四年生で疎開した男子学童の疎開日記。段々さびしくなる食事やおやつの詳しい内容や勉強・遊びなど日々の出来事をつづっています。淡々と述べられている日記が語る疎開生活とは何でしょうか。

II　乾芳子日記　筆者は五年生女子。わが家と離れたさびしさや東京空襲への心配、疎開先での悩みごとなども率直に書かれています。

III　金丸お姉さんへの手紙　学寮の変更・担当寮母の異動によって、別れ別れになって生活することになった金丸寮母あてに子どもたちが書いた手紙。次はその一節。「やっぱし戸倉ホテルで、お姉さんとくらしたいわ、そしたらいまごろお姉さんに、お話をして、いただいているわね／お姉さん、お体をお大切に。さよなら〳〵、大好きな、〳〵、〳〵、金丸お姉さん」。計八〇点収録。

IV　家族から金丸寮母へ　金丸寮母あての母・父・妹からの手紙。

V　体重測定表　備品台帳写等―鈴木清一関係文書―　付き添いの教員をされていた鈴木清一氏から寄贈いただいたもの。

VI　表彰状等―金丸喜代子関係文書―　教員や寮母さんの苦労の一端が記されています。

付I　亀田喜代子氏「私と子供達」　亀田さんの回想です。オネショ・脱走・二階からの転落・シラミ・うどんの盗み食い等々の疎開先での様々な「事件」をとおして、子どもたちとの交流が描かれています。

付II　高野顕道氏「学童疎開回顧録」　高野氏は疎開学寮だった坂城町大英寺の住職。

資料はできる限り原文に忠実に示し、葉書に書かれている絵は全て写真で収録しました。また、関連する写真や地図、学寮の間取り図をのせて、参考にしてあります。

なお、学童疎開の資料のうち、整理の終わったものを目録化して本館『収蔵資料目録』第四集に掲載しました。内容は「寄贈生活資料」・「寄贈文献資料」・「複写文献資料」・「写真資料」・「図書資料」です。合わせてご活用ください。

（資料集一冊〇〇〇円、目録八〇〇円）

一九八九年度の郷土資料館事業について

一九八九年度は、人員増が認められなかったため、特別展を一回に減らし、埋蔵文化財関係を除く、文化財関係の仕事に取り組めなくなりました。そのため新たな文化財の登録は出来ず、文化財講座や史跡散歩会も開催出来ませんでした。

特別展は、第三回戦中戦後の区民生活を一九八九年一二月八日から翌年一月三一日にかけて開催しました。これは昨年までの資料収集と整理の成果の上にたち、このテーマについて、集大成する位置づけで行われたものです。

調査は歴史生活所在調査を旧西巣鴨地区について五月一六日から六月一日にかけて行いました。豊島氏関係文書調査も京都の醍醐寺文化財研究所をはじめ継続的に進めました。学童疎開についても、資料集編集にからめて、長野県と山形県について補足的調査を実施しました。

講座は、地域史講座は「中世・鎌倉街道を調べる」と「失われた水辺を探る」をそれぞれ六月四日から六月二五日にかけてと、一〇月八日から一一月五日にかけて行いました。歴史講座は、「女性たちの歩みにふれる」と「江戸周縁の地域像」をそれぞれ一月二六日から三月二日にかけてと、二月一七日から三月一七日にかけて連続的に行いました。

刊行物では、調査報告書は第五集として、学童疎開関係資料集の第一巻目を出しました。目録は長崎地区の歴史生活所在調査に関連して寄贈された資料で、目録第三集に収録出来なかった残りと、学童疎開関係資料目録を掲載した第四集を刊行しました。研究紀要『生活と文化』第四号を出しましたが、これには館員の研究論文と、一九八七・八年の二年分の年報を収録しました。地図の複製は近世の切絵図を刊行し、館だより『かたりべ』も一五号から一七号までを刊行し、その時々の館事業のお知らせや、利用者の方々からの声を掲載いたしました。

資料整理については、資料の写真撮影と図書資料の整理に重点を置いて進めました。また、区民の皆さんからご寄贈いただいた貴重な資料を虫害から守るために、資料の燻蒸を昨年に引き続き実施し、杉浦茂氏が描いた「池袋空襲」の絵と長崎・北原念仏講の本尊、掛軸については、いたみの激しい部分を修復いたしました。

すごしやすい季節になってきました。

かたりべ一八号をおとどけします。

開館六年目を迎えた資料館の学芸員も大きく変わりました。区史編さん時代から豊島区の歩みを残すことにかかわってきた山辺昌彦学芸員が、京都の立命館大学の資料館開館準備の任を受けて、この三月三一日付で退職されました。

また、文化財係が資料館から独立したことにともない、埋蔵文化財にこれまで多くの業績を残されてきた橋口定志学芸員と、民俗学の福岡直子学芸員が文化財係に移動しました。

そして、教育史の長谷幸江学芸員は、豊島区地域女性史編さん準備のため、婦人青少年課に移りました。

なお、資料館には、石川恵美学芸員が着任しました。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

※資料館は、資料くん蒸のため、六月六日～六月十日まで臨時休館となります。

かたりべ
・
No.18
・
1990年5月15日
発行
・
豊島区立郷土資料館
・
豊島区西池袋2-37-4
・
電話03-980-2351